

先輩教師の教え

先輩からいただいた言葉を紹介し
ます。（教育雑誌より一部抜粋）

5月、今できることを！！

最も美しく輝くこの季節。子どもたちの元気な声が飛び交い、生き生きとした姿が見られるはずの5月。ところが新型コロナウイルス感染症に対応した休校措置が断続的に取られ、これまでに経験したこともない特別な春となってしまいました。

様々な制約の中で子どもたちや先生方、そして保護者の方々は我慢を強いられながらも、学校再開に向けて「今、できること」を考え、工夫し、過ごしていたのではないのでしょうか。

○ 小学校では、子どもたちが元気で走り回る姿を想像しながら校庭を整備し、真っ白なラインを引く先生がいて、S 小学校では地域の方の力を借りながら学校用の畑を耕し、早速じゃがいもを植える先生方がいて、N 小学校では先生方が自らモデルとなり運動不足にならないように簡単な運動をホームページにアップし呼びかける。「子どもたちを一日も早く学校に迎え入れたい。」「子どもたちとともに授業がしたい。」と思う気持ちはみな同じです。子どもたちもきっと同じです。

学校は、「感染防止の3条件をどのようにクリアするか」「子どもたちの心のケアはどのように行うか」「新学習指導要領で求められる対話的な学習は可能か」など学校職員全員で課題に対応していくことが求められます。様々な過ごしてきた子どもたちをしっかりと観察し、一人一人に寄り添いながら、学校生活が楽しいと感ぜられるような言葉かけに努めてください。



- ① 「三つ子の魂百まで 鉄は熱いうちに打て」
- ② 大きな帆を揚げて進もうとする船ほど大きな波が立つ。
(エネルギー全開で進め)
- ③ VSOP は、すべてに通ず
Vitality 活気・活力・持続力
Speciality 専門性・特殊性
Originality 独創性・創意
Personality and Partner
個性・性格、仲間・味方
- ④ 子どもたちは先生を知りたいのです。先生も自己開示を。
- ⑤ 教室に入る時は、右足から入る。子どもたちの顔が見たいでしょ。
- ⑥ 学級にいてこそ「担任」です。
- ⑦ 躰とルール作りは5月まで。
- ⑧ どんな児童・生徒も学級の宝！大事に下さい。
- ⑨ すべての子に声掛けを。

こんな時だからこそ、いろいろな人の言葉に耳を傾けてみましょう。



ある報道番組で、新型コロナウイルス感染防止のために営業を自粛している商店街を映し出し、「人の姿が全く見られない。賑やかだった町はさみしくゴースタウンのようだ。」と伝えていた。しかし、「町を行きかう人はほとんど見られない。人々が自粛し、努力している商店街の姿だ。」と言い換えたら、どうでしょう？子どもたちには、どのように伝えていけばよいのかを考え、不安をあおり、混乱を招くようなことは避けなくてはなりません。

心に残るメッセージを紹介します。

「新型コロナウイルスは、感染症を引き起こし、人間を死に至らしめます。そのことはとても恐ろしいことです。しかしながら、デマも、買い占めも、差別も、誹謗中傷も、不安をあおることも、人間の恐怖心が生み出していることです。怖いことは感染の恐怖から、不安や不満が蓄積し、不当な差別や不毛の対立が生まれてしまうことです。最も怖いのはコロナではなく、人間のこころです。

<神奈川県医師会公式サイト「かながわコロナ通信」より>

学び続ける教師に！！

授業と授業研究を第一優先にした学校づくりで

教師が育つ 子どもが伸びる 学校が変わる



子どもたちは、「今年度こそは〇〇を頑張ろう」「これからは〇〇に力を入れてみよう」「今までの生活を〇〇のようにしていこう」等、夢や希望を胸に抱いて学校生活を送っています。だから教師は、この希望で満ち溢れている子どもたちの気持ちをしっかりと受け止め、「授業」に取り組まなければなりません。「子どもを変える」「学校を変える」とよく耳にしますが、そのためには教師自身が日々の授業を問い直し、一歩でも前へ進む努力を重ね「変わり、育つ」必要があるのではないのでしょうか。

須賀川市教育委員会教育長から年度当初『令和2年度を「共同的な学び」への挑戦の年に』が配付されています。その中に『授業において市内すべての教員に「主体的・対話的で深い学び」への挑戦を求めます。』と記されています。こんな時だからこそ再読し、「授業」についてしっかりと取り組んでいかななくてはなりません。その一部を紹介します。

授業において「共同的な学び」の質を高めるには、授業設計及び展開において、子どもの学びを探究的にしていくことが肝要であり、そのためには

＜真正な学び＞ ＜学び合う（聞き合う）関係づくり＞ ＜ジャンプある学び（課題）＞
の3つの要素を考えていくことが基本でありポイントです。

・・・・・・・・・・・・・・・・中 略・・・・・・・・・・・・・・・・

新学習指導要領による教育活動がいよいよ始まる今、教員には『Talk（おしゃべり）』『Chalk（チョークと黒板）』『Joke（冗談）』で成立してしまういわば30年前となんら変わりのない“ガラパゴス授業”から「主体的・対話的で深い学びの実現を通して子どもの生きる力を育てる授業」への転換が強く求められています。

『令和2年度を「共同的な学び」への挑戦の年に』より一部抜粋

「心と体の健康調査票」の活用を！！



須賀川市教育委員会から配付された「心と体の健康調査票」での調査結果をもとに児童生徒一人一人の心身の健康状態を把握し、個別や全体での指導・支援に役立ててください。さらに、学級担任の先生方には、自由記述欄に記された言葉や提出された課題の取り組み結果から、家庭学習の内容や取り組みさせ方などについて振り返る資料にするなど、多面的に活用することをお勧めします。

《例えば、次のような回答にはどのように対応しますか？》

- 食べ物がなかったから3食きちんと食べられなかった。
- 家の人に殴られ、叱られ怖かった。
- 勉強の仕方がわからなかった。

個人的に関わっていく内容にも受け止められますが、「もしかすると同じような子が他にもいるのではないか。」とクラス全体の子どもの表情を見つめ直したり、課題の出し方が実態に即していたのか再考したりすることも大切です。